

# 雪洞

糸魚川勤労者山岳会

会長 青木 満 磨

TEL 025-552-9901



(2092)No.42 発行 2019年8月10日



## 山行記

★山域・山名＝山形/秋田・鳥海山 2236m

★山行日＝2019年8月3-4日(土日)

★天候＝3日/曇り、ガスのち晴れ 4日/晴れ

★山行者＝内山、大瀬、田中、渡辺久、渡辺悦、他1名

【コースタイム】 **3日**湯の台登山口 10:30…河原宿小屋…心字雪渓…伏拝岳…行者岳…16:30  
頂上参籠所(御室小屋/泊) **4日**参籠所 4:00…新山(鳥海山山頂)…参籠所 6:00…千蛇谷…七五  
三掛…御田ヶ原分岐…鳥海湖…仙人平…千畳ヶ原…幸治郎沢…河原宿小屋…13:10湯の台登山口

### ◆8月3日 曇り、ガス。

▼登山口は25℃。予想どおり蒸し暑い。八丁坂途中から少しずつ青空が見えはじめ、あたり一面の花畑。河原宿小屋でほぼ快晴となり伏拝岳を仰ぎながら休憩。

▼雪溶けの冷たい沢水で顔を洗い心字雪渓に取りつく。雪渓は思ったより歩きにくく、アイゼンを外し左の登山道に行く。雪と岩と新緑のさわやかな気分は雪渓の終点まで。アザミ坂は腰までの草本と低木だけで日射しが厳しく、伏拝岳までの長かったこと。

▼七高山へ続く外輪山稜線歩行は実に爽快。ここまでの暑さと疲れを忘れさせる。同行者に教わった固有種の鳥海アザミ、鳥海フスマ等の高山植物。5万分1図2面を占める雄大な山体の眺め、今山行のハイライトだった。タイムオ



千畳ヶ原でトキソウを見つける 8/4



七五三掛にて遠くに日本海が見えている 8/4

ーバーのため七高山はあきらめ、ザした急斜面を下り参籠所へ向かう。

▼定員 150人の御室小屋はほぼ満員。夕食は予想した精進料理のほかにサバの味噌煮がうれしい。食事後、外で夕日を見ながらビールで乾杯。タベのお勤めの太鼓の音が、ここが神社であることを改めて思い起こさせる。19時半就寝。

### ◆8月4日 晴れ。

▼4時、新山(鳥海山山頂)へ。薄暗く、頭も体も1/2覚醒なので足元がやや不安だがクマになったつもりで四つ足にて登る。頂上は満員、

東北弁が飛び交うなか、私たちは正しい系魚川弁で対抗する。待つこと15分。ご来光、影鳥海がきれい。

▼参籠所からは蛇など居そうもない干蛇谷を七五三掛へ向かうが、下りきったところで地図では読み取れない急登が現れ、ややがっかりする。御田ヶ原分岐までゆるやかに下って休憩。ここからは鳥海御浜神社に向かわず木道で鳥海湖へショートカット

▼鳥海湖は大きくないが典型的なカルデラ湖だ。湖畔の残雪がまぶしい。雪に寝そべりたいほど暑かったがだれも池まで下りようとは言わない。木道を下った盆地状の干畳ヶ原は湿原のようだがイネ科が繁茂したためか花は少なく、一人の登山者にも出会わなかった

▼事前の地図シミュレーションでは、鳥海湖から河原宿小屋まではわりに楽そうに思っていたのだが、暑さのためか長くつらく感じた。小屋で用意した2ℓの水では怪しくなったので沢水で補給、熱中症を免れた。幸治郎沢も地図では読み取れず、現れて一瞬たじろいだが、岩登りも思い返せば楽しかった気もする

▼河原宿小屋で大休憩。沢水を頭からかぶり、



外輪山(奥)に向かって心字雪渓を登る 8/3

名残を惜しみながらお花畑の八丁坂をゆっくり、ゆっくり下山した。  
(報告・写真 by 渡辺久)



外輪山・行者岳のハシゴを登る 8/3



## 写真展、開催中!

8月20(火)まで!

▼市山岳連盟主催で、「山の日」制定記念の写真展が8月1日からひすい王国館で開催されています。今年は写真出展数が少なめでしたが、美しく撮影された山や花等の写真が展示されています。当会の佐藤幸雄さんから3点の写真を出展していただきました。皆さんの鑑賞をお願いします。

写真展の様子/ひすい王国館

